

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イオンモール座間新築工事(店舗棟)	階数	地上4F
建設地	座間市広野台2-4958の13ほか2筆及び2-4958の18の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	15,700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,700 時間/年
建物用途	物販店,飲食店,集会所,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年5月16日
敷地面積	57,867 m ²	作成者	株式会社 大林組
建築面積	26,617 m ²	確認日	2016年5月16日
延床面積	73,583 m ²	確認者	株式会社 大林組

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	高効率な設備機器の導入、リサイクル材・節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。また、外構や壁面緑化を積極的に行い、生物資源の創出や温熱環境負荷の向上に配慮している。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・保育所は、積極的な昼光利用に配慮する。 ・取り入れ外気は排気口と離隔距離を十分確保し、空気質環境に配慮する。	・耐用年数の長い材料を採用し、建物の耐用性の向上に配慮する。 ・非常用発電機の設置、受電設備の二重化等、災害時の設備機器の機能維持を図り建物の信頼性の向上に配慮する。	・外構の植栽だけでなく、壁面への積極的な建物緑化により、生物環境の創出や温熱環境の向上に配慮する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・断熱性の高い建材を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮する。 ・高効率な設備機器を採用し、エネルギー消費量を抑える。	・節水型機器の採用により、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材や再利用可能なユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮する。	・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮する。 ・屋外照明は周囲への漏れ光に配慮した計画とする。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される